掛札逸美　2024/1/25（未完成。詳細資料リンク先はまだ入れてありません）

「事故予防」？　どれのことですか？

大前提：子どもの命を守るのはおとなの責任。未就学児はまだ死を理解していない
子どもに具体的なルールを教えることは大切。でも、子どもが自分で事故と
その結果を防げると考えてはいけない

結果

ケガになった
ケガになりそうだった
ケガになるかも

起きた…
起こり得る…

「できごと」は
右のどれですか？

できごとから、結果とその軽重を想定できない（例：何もない床で滑った時）

できごとから、結果とその軽重を想定できる（例：はさんだ場所の鋭さ）

できごと

ほぼ命にかかわらない

- かみつき、ひっかき、ケンカ等（子どもの相互作用）
- つまずく
すべる
ぶつかる
（転ぶ：上記のできごとの結果）

死ぬこともある

- 落ちる（「降りる」「飛び降りる」の失敗を含む）
- 落ちる（その年齢の子どもがいてはいけない高さから）
- おとなが落とす
- 切る
はさむ
刺す
- 熱い物（水、汁物、遊具等）に触れる

・これらのできごとには、成長発達の価値が（たいてい）ある
・自園の事例から、園の環境／人の条件のもと、価値とリスクの線引きを決めていく

・あなたの園では、その時のそのできごとに至った原因となった活動を、**子どもの成長発達のための価値**とみなしますか？
・その時のそのできごとに至った活動は、**あなたの園の保育の質**として、認められるものですか（月齢、天候、職員や子どものその時の状態等）？
・価値、質とは別に、**結果（ケガ）を予防／軽減できる具体的な方法**がありますか？
（✘注意する、気をつける、見守る、声をかける等は「対策もどき」）

↓ 結果（ケガ）の軽重にかかわらず、起きたできごとを検討、必要に応じて保護者に説明。検討にも説明にも映像はおおいに役立つ

価値ある活動＋保育の質として問題なし＋ケガ予防／軽減策なし	起きた事実を保護者に説明
価値ある活動＋保育の質として問題なし＋ケガ予防／軽減策あり	起きた事実を説明し、園内では予防／軽減策に取り組んでみる
価値なし／保育の質に問題あり	問題点と具体的な改善策を説明し、改善する

・これらのできごとには、成長発達の価値がない
・ほぼすべて、結果（ケガ）を予防／軽減できる具体的な方法がある

問題点と具体的な改善策を保護者に説明し、改善する

↓

具体的な説明（＋必要なら改善策）のない謝罪や「こんなケガは二度と起こしません」は状況を悪化させるだけ

掛札逸美　2024/1/25（未完成。詳細資料リンク先はまだ入れてありません）

「事故予防」？　どれのことですか？

大前提：子どもの命を守るのはおとなの責任。未就学児はまだ死を理解していない

できごと

息ができなくなった
息ができなくなる危なさ（ハザード）がある

できごとがなんであれ、結果（死亡、脳障害）を決めるのは「息ができない時間の長さ」

- 食事は避けられない → 喉か気管に食物が詰まる（誤嚥窒息）
- ハザード（物、環境）の制御が可能 →
  - 喉か気管に玩具や物が詰まる（誤嚥窒息）
  - 首が絞まる／押される（絞扼）
  - 鼻と口がふさがれる
- 水中の異常にすぐ、必ず気づける方法はない → 溺水

（食物・玩具や物が詰まる）気道異物除去をしても、解除できない可能性あり

（絞扼・鼻と口・溺水）早く見つけさえすれば、息ができない状態を解除するのは容易

誤飲した
誤飲ハザードがある

危険なのは
・ボタン電池　・磁石
・水でふくらむ玩具　・体内で刺さるもの

左以外は健康観察、便の観察

> 誤嚥：嚥下しそこねて、喉か気管にはさまっている（喉か気管が完全に詰まったら完全閉塞＝誤嚥窒息）
>
> 誤飲：体内に入れてはいけないものを飲み込んだ状態（０歳のハチミツ、子どものアルコールも誤飲

狭く、閉じられた場所に閉じ込めた
屋上園庭に閉め出した

＋ **暑熱ハザード（高温、高湿）**

取り残さないことが容易。「誰もいない！」声出し指差し確認を必ずする（職員の行動ルール★）

園の敷地から外へ出た
散歩中に見失った

・送迎時間帯は保護者の責任も大きい（保護者の行動ルール★）
・バリア（鍵、パーテーション等）を増やして、敷地から出るまでに時間がかかる（職員が気づきやすい）ようにする。鍵は必ずかける等、おとなのルール★）
・散歩の見失いを防ぐ基本は、「子どもの数を減らす」

人数確認は「いなくなった」と気づく方法であり、いないと気づいた時には手遅れかもしれない。「いなくならないようにする」が根本対策

アレルギー食材に曝露（誤食、粉塵の吸入、接触等）

・診断書が出ていない子どもが発症することも
・「口にする」以外の曝露経路もある

「口にした」「食べる直前に気づいた」事例（＝職員の行動ルールがすべて失敗）よりも、納品～配膳に気づけた事例を活かす。行動ルール★が奏功しているとわかり、効用感が上がる

～し忘れ
～し間違い

・人間の脳の基本は「ぼんやり」→「忘れる」「間違える」は当然
・責めるだけだと事例を隠すようになり、かえって危険（アレルギーも同じ）
・本人が気づける方法（声出し指差し確認等★）、他人が気づける方法を

★行動ルールは曖昧（✘気をつける、注意する等）ではダメ。「誰がしても同じ行動になる」ように記述する＝マニュアル